

日本共産党の代表質問の紹介 2

鉄道高架の結論は住民投票で

蝦名市政で与党だった議員の多くが、新市長の「高架下道路の直線化」に反対。

しかし、市長選挙で「L字型」を公約した蝦名氏が最下位に終わり、直線化を公約した二人がそれを上回ったのも事実です。

一方、新市長の直線化案も政策として整合性がないため、厳しい批判にさらされることに。

だからこそ、この一年間は徹底して市民と市長が話し合い、8年度の初頭に鉄道高架の是非を住民投票で決めよと共産党は提



案しました。

住民投票の可能性を示唆しながら、「住民投票をするとは決めていない」と議論を逃げる市長。市長に「公約を守るな」と迫る旧与党。これでは市政は混

乱するばかりです。
唯一の解決策は住民投票です。共産党は鉄道高架には首尾一貫反対し、道理ある提案で市政を動かします。

昭和・北園の太陽光パネルには反対

市は湿原周辺の太陽光パネルの規制の条例を検討しています。しかし条例制定前に新たなメガソーラー計画が浮上しました。会社は、規制条例ができるのを待つ必要はないとの考えです。いますぐ、この計画を止め

なくてはなりません。
キタサンシヨウウオヤオジロワシなどの希少生物に影響を及ぼす太陽光パネルの建設に、市長は反対の意思を示せと迫りました。市長は「湿原周辺には立ててほしくない」とは言いながらも、反対の意思は明確にしませんでした。



給食費の段階的無償化 第一子からの保育料無料 市長選挙の公約守れと迫る

代表質問では、市長が選挙で公約した「給食費の段階的無償化」「第一子からの保育料無償化」の実現を迫りました。

「給食費を無料にする時期を示せ」と迫ると、市長は「白紙」と答弁。無料化には5億円のお金がかかると言い訳しましたが、管内の自治体で無償化していないのは釧路市だけ。どこでも厳しい財政のなか財源を捻出していますから、市長の言い訳は通用しません。



保育料もそうです。前市長が「第二子から所得にかかわらず無償にする」と、すでに準備していたことを踏襲しただけ。あっさり、第一子からという公約を反故にしました。

繰り返しの厳しい追及に、給食費の無償化は「7年度中に方向性を示す」、保育料は「導入時期は財政状況を踏まえ検討する」と答えるのが精一杯でした。



◆◆◆福祉の分野では、こんな質問もしました。◆◆◆

問 恒常的な制度として福祉灯油制度をつくれ。

答 H22年度に廃止したので再実施はしない。

問 住宅の困りごとに対応できる重層的な支援体制をつくれ。

答 「くらしごと」に委託して住宅の困りごとの相談をしている。

問 新たに介護職となる方に市独自の支援金を支給せよ。

答 介護人材確保事業として、事業者への支援をしている。